

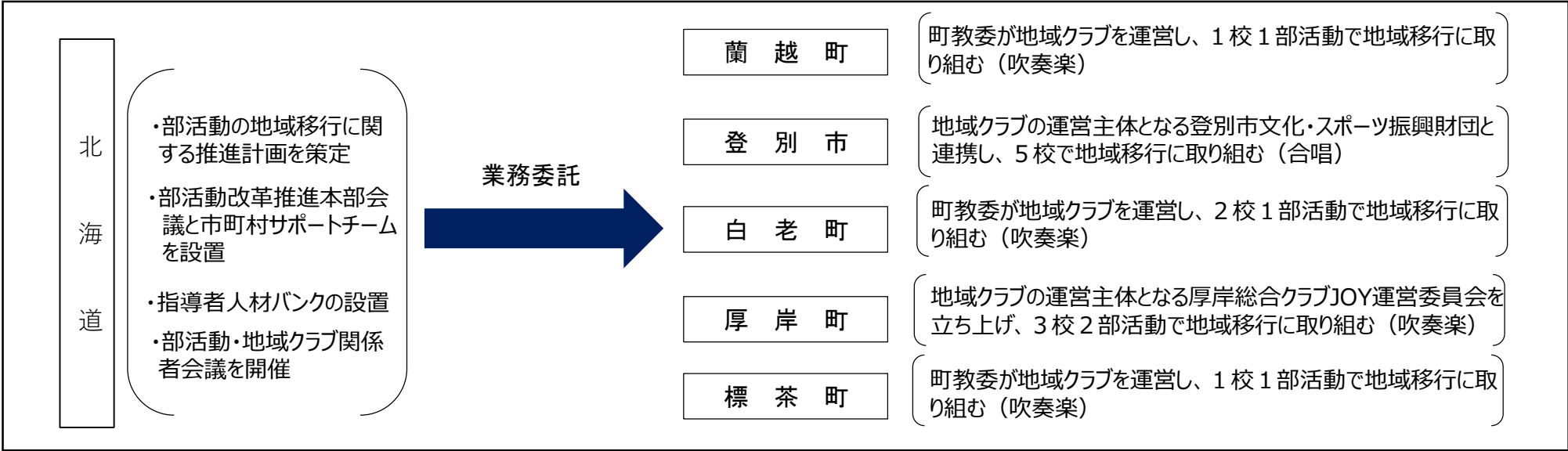
自治体の課題、現状

- ・本道の人口は、令和6年現在約509万人で、全国の22%を占める広大な面積に都市が点在する広域分散型の地域特性を有しており、人口の約46%が札幌市を含む石狩振興局管内に集中している。
- ・また、中学生の人数は、昭和61年の約27万3千人から、令和6年には、約11万3千人と、ピーク時の半分以上となっており、今後も減少が継続すると見込まれる。
- ・このような、少子化による生徒数減、部活動数減のなか、指導や大会運営等教員負担も大きくなっており、学校だけで、子どもたちの文化環境を継続的に支えていくことが困難な状況にある。

地域移行関連の取組、成果

- ・「北海道部活動の部活動地域移行に関する推進計画」のもと、部活動改革本部会議と道内14教育局における市町村サポートチームを設置しており、本サポートチームにより各市町村の進捗状況の把握と支援が促進された。
- ・指導者人材の確保に向け、「ほっかいどう部活動地域クラブ活動サポーターバンク」の設置により、各地域の潜在的な指導者人材が発掘され、市町村における指導者人材確保のニーズと指導を希望する道民とのマッチングに寄与した。
- ・企業等からの支援に係る官民連携の取組が推進されるとともに、今後に向けた検討が進んだ。

運営体制図



自治体の課題、現状

・本町においては、1校の公立中学校があり、生徒数95人で6つの運動部と1つの文化部が活動しており、吹奏楽部は唯一の文化部である。吹奏楽部に所属する生徒は14人と人気のある部活だが、少子化及び過疎化で中学生が減少する中、十分な活動が行えないほか、教員の働き方改革の推進等に伴い、地域にも十分な指導者がおらず、パート（楽器）ごとの技術や奏法の指導が上級生から下級生に行うことができず、顧問や指導員が苦慮している状況にある。それらを踏まえ、本町の吹奏楽の文化が衰退しないよう、地域活動として吹奏楽を楽しめる場を創出する必要がある。

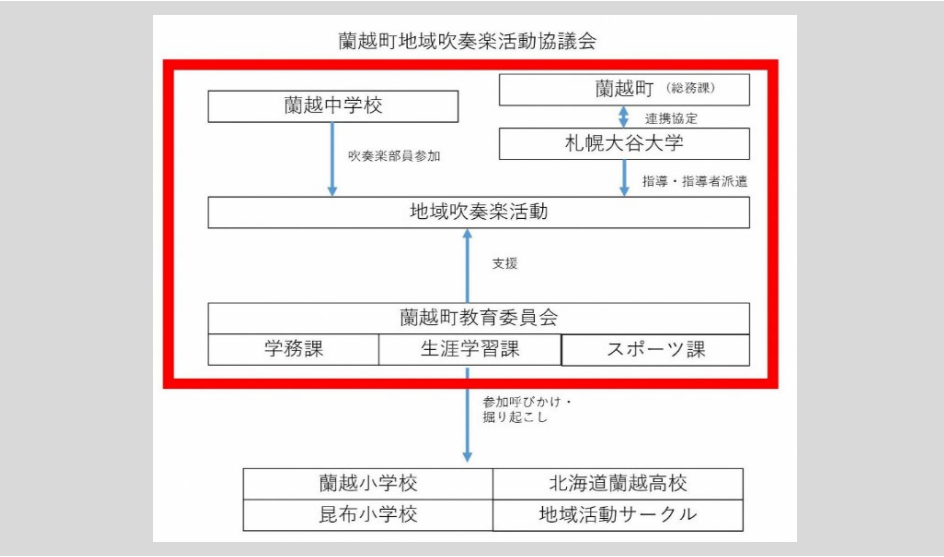
地域文化クラブ活動等の概要

中学校数	1 校	全生徒数	95 人
域内の部活動数	1 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	0 人
主な運営団体	地域移行・市区町村運営型		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7人/クラブ 2年：2人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	蘭越中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・取組としては、町が包括連携協定を締結している札幌大谷大学音楽学科を活用し、発表会など目標設定を行い、町民の多くに活動について関心を持ってもらうことを目指す。
- ・ICTを活用し、音楽学科の教授や大学生から質の高い音楽の指導を受けた。
- ・使用する楽器は中学校が保有する楽器を使用貸借し、生徒についてはGIGAタブレットや学校WiFi、公共WiFiの使用を認め、参加費用の負担軽減を図った。
- ・活動場所を蘭越中学校とすることで、生徒や楽団員、楽器の移動に係る負担を軽減した。

運営体制図



自治体の課題、現状

生徒数や教員数の減少により、部活動の種類が減少している一方で、生徒のニーズは多様化しており、希望する文化芸術活動に取り組むことができない生徒が増加している。加えて、地域においても、文化団体の活動縮小や停滞が進んでいることから、まずは中学生の活動の場を確保を進め、将来的には子どもから大人まで、生涯にわたって文化芸術に親しむことができる環境の構築を図り、地域全体で本市の文化芸術を支える「地域とともにある文化の振興」を目指す必要がある。そこで、登別市においては、これまで本市の文化・スポーツの振興に取り組んできた「一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団」が新たな地域クラブ「登別市地域クラブ」を立ち上げ、中学生にとって望ましい文化芸術環境を整え、市教育委員会や他のスポーツ関係団体がその取組を支援していくこととした。

地域文化クラブ活動等の概要

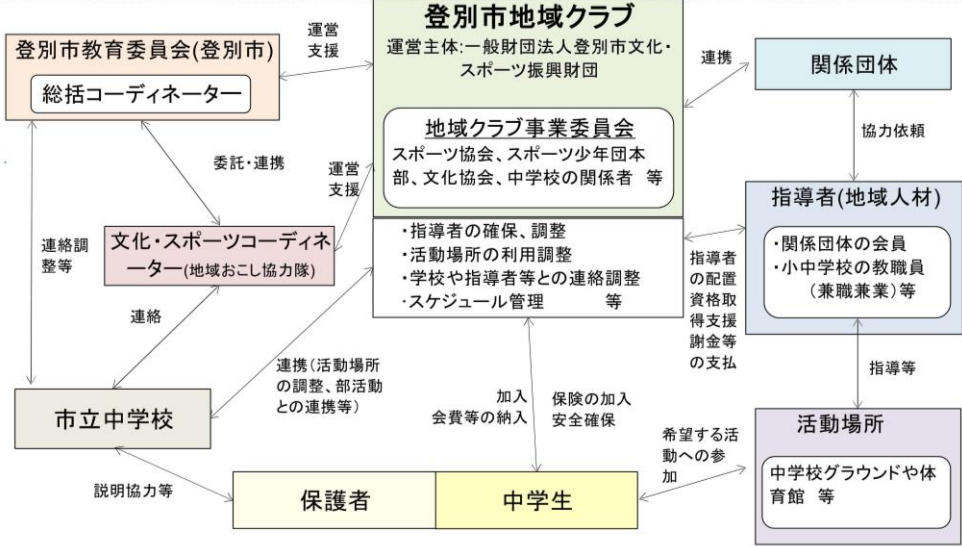
中学校数	5 校	全生徒数	1 0 7 9 人
域内の部活動数	9 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	1 人
主な運営団体	その他非営利法人		
主な種目	合唱		
平均的な活動回数	2 回/週	年間平均参加生徒実数	3 年：1 人/クラブ 2 年：0 人/クラブ 1 年：3 人/クラブ
参加会費	12,000円/年	主な活動場所	市民会館

地域移行関連の取組、成果

・総括コーディネーターの配置
地域クラブ活動の推進にあたっては、これまでの学校部活動の良い所を引き継いだ上で、進めていく必要があり、学校に精通している元中学校校長が総括コーディネーターをして学校との橋渡し役となったことが、円滑なクラブ運営につながった。

・学校間を巡回するバスの運行
登別市においては、平日活動と休日活動の連携などから、休日の活動だけではなく、平日の活動についても可能な限り地域クラブ活動として実施していくことが望ましいと考えており、平日活動の課題となる移動手段の確保に向けて、バスを運行することで、その必要性や事業内容、経費等を検証することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・本町は、昭和60年の24,353人をピークに加速度的に人口減少が続いており、令和6年の人口は15,048人、高齢化率は47.1%となっており、地域社会を支える人材の養成が大きな課題となっている。
- ・現在町内には2校の中学校があり、両校に吹奏楽部がある。そのうち1校においては地域移行が進んでいるが、もう1校は部活動として活動が継続していることから地域クラブに合流するための準備を行っている。
- ・その他、美術部が1校において存続しているが、地域クラブ化の目途はたっていない。

地域文化クラブ活動等の概要

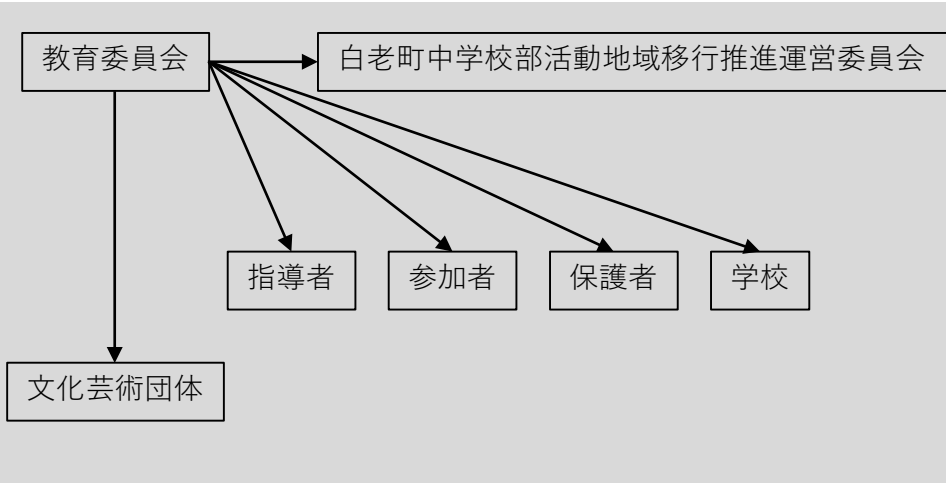
中学校数	2校	全生徒数	247人
域内の部活動数	3部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	1人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	白老町教育委員会生涯学習課・白老吹奏楽団		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	3回/週	年間平均参加生徒実数	3年：1人/クラブ 2年：1人/クラブ 1年：2人/クラブ
参加会費	2,000円/年	主な活動場所	白老町コミュニティセンター

地域移行関連の取組、成果

吹奏楽部の地域移行について

- ・地域の社会人で構成される「白老吹奏楽団」との連携の下、吹奏楽部の地域移行を進める運びとなった。
- ・2校のうち1校において吹奏楽部の地域移行が進んでおり、クラブには4名の生徒が在籍。
- ・指導者としては同団体の団長へ委任し、8月以降週3回のペースで白老町コミュニティセンターを拠点に活動を実施。人数が少なく、演奏できる楽曲に制限があるが、定期的に同楽団から支援者を募ることで演奏の幅を広げることができている。
- ・これまで地域に出向いた演奏会を3回開催し、住民に活動成果のお披露目できたほか、生徒のモチベーションにもつながっている。

運営体制図



自治体の課題、現状

厚岸町における文化系部活動は、3つある中学校のうち、2つの学校に吹奏楽部があるが、そのうち1校については部員がいないため現在は休部状態となっている。

令和6年度の活動内容としては、平日は学校部活動として活動し、休日の活動については地域移行を進めている。円滑な移行を進めるため、学校部活動顧問の教員も地域指導者として活動に加わっている。

今後の生徒数の減少に伴い、部員数の減少が見込まれ、小学校の段階から文化系の活動を増やす必要があることや、休部中の中学校においても加入希望者を募り、部員数を確保していくことが課題である。

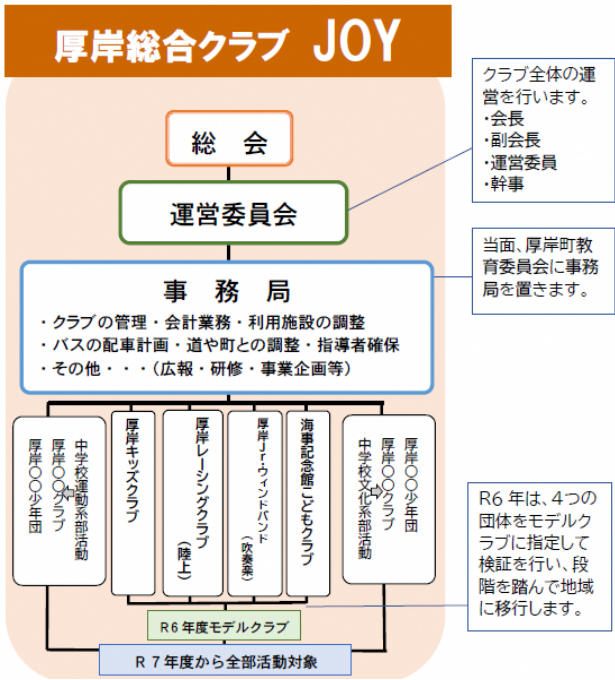
地域文化クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	171人
域内の部活動数	2部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	厚岸総合クラブJOY（地域クラブ）		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：2人/クラブ 1年：2人/クラブ
参加会費	24,000円/年	主な活動場所	厚岸町立真龍中学校

地域移行関連の取組、成果

- 指導者・財源・移送の確保の面などから地域移行が難しいと言われている吹奏楽の地域移行は、地域指導者・学校部活動指導者の理解もあり概ね計画通り進んでいる。また、生徒や保護者対象のアンケート結果からも、充実した活動ぶりが伺える。
- 次年度に向け、楽器の整備やメンテナンスなどの費用面、楽器の移送手段の確保などが大きな課題となる。
- 今後町教委の生涯学習課の事業ともタイアップして、文化系のクラブ活動を増やしていく。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・地域全体の課題は、人口減少及び少子高齢化が進行しており、大多数の町が消滅の可能性があると呼ばれている中で、いかにして地域の実情に合った方法で移行を進めていくかが問題となっております。
- ・地域移行の取組の現状は、今年度先行して1つの部活動の地域移行を実施しました。
- ・地域移行を進める上での課題は、指導者確保の問題、活動する生徒の移動手段の問題、財源確保や費用負担の問題、運営母体の問題等、様々な問題が山積しています。

地域文化クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	188人
域内の部活動数	1部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	標茶町教育委員会		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：8人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：8人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	標茶中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・町独自で指導者バンクを立ち上げ、1名の登録をいただいた。ただ、依然として指導者の確保が課題となっており継続した取組が必要。
- ・生徒の数が減少してきており、それにより部活動をする生徒の数も減少。部活動の今後の在り方や従来の部活動にはない種目や活動などやってみたいと思っているものを把握するためアンケート調査を実施した。アンケートでは部活動をやりたいと思ってもやりたい部活動がないということや、やってみたい活動として美術部や茶道部をやりたいという声があり、活動の多様性の検討も必要となってくることがわかった。

運営体制図

